

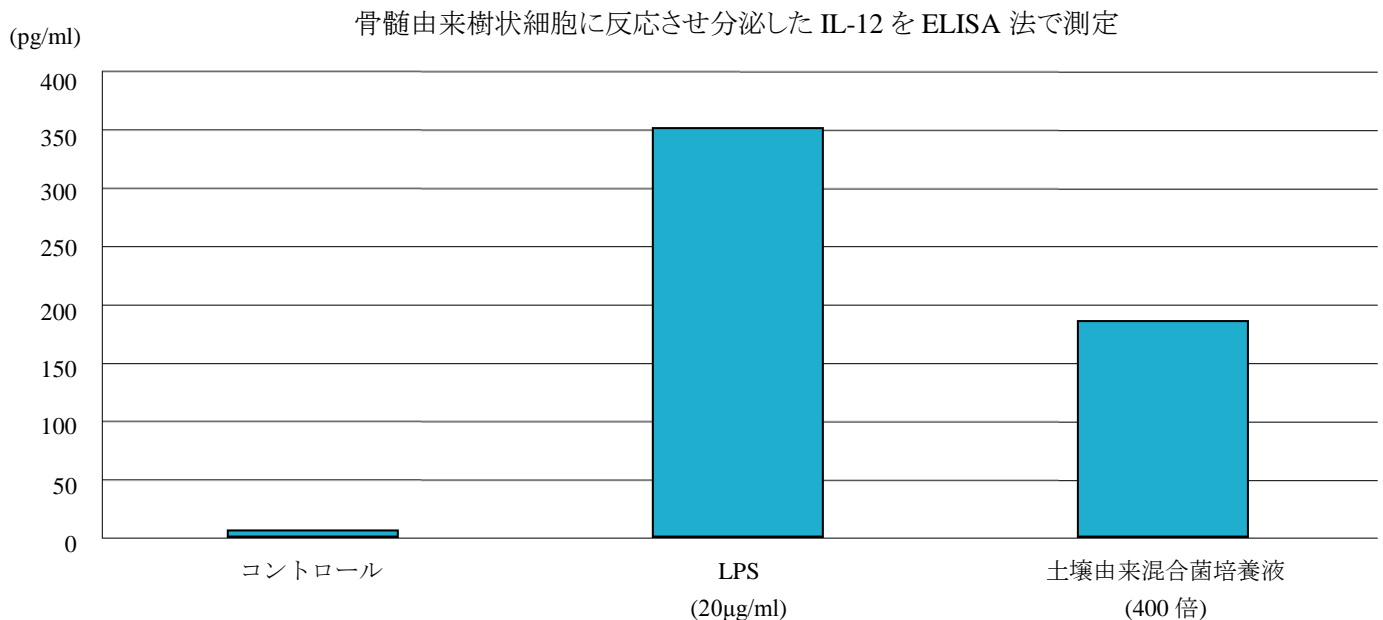
## IL-12 測定試験

### <試験方法と内容>

骨髄由来樹状細胞を用い、土壌由来混合菌培養液の添加時に分泌された IL-12 量を ELISA 法によって定量した。対照物質として、免疫細胞を刺激する物質である LPS (20 $\mu$ g/ml) を使用した。

### <結果>

LPSは免疫反応の進行に関与する物質で、本試験においてIL-12量を増加させ、免疫活性促進作用を示した。本試験においては、土壌由来混合菌培養液を400倍に希釈した場合に分泌したIL-12量がLPS添加時の約半量であったため、土壌由来混合菌培養液にも免疫活性を促進する作用があることが確認できた。



神戸医療機器センター当社研究所にて調査

注1) LPS (リポポリサッカライド) グラム陰性菌細胞壁外膜の構成成分

### (\*) IL-12

IL-12はサイトカインの1種で、①細胞性免疫へのシフトを誘導、②NK細胞の活性化、③細胞障害性T細胞の活性化、といった作用があり免疫反応に大きく関与している。